

# イスラエル

State of Israel

	2016年	2017年	2018年
①人口：906万人（2019年7月末）			
②面積：2万2,072km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：4万1,644米ドル (2018年)			
④実質GDP成長率（%）	4.0	3.5	3.3
⑤消費者物価上昇率（%）	△0.1	0.4	0.5
⑥失業率（%）	4.8	4.2	4.0
⑦貿易収支（100万米ドル）	△5,231	△7,993	△14,659
⑧経常収支（100万米ドル）	12,267	10,120	10,995
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	98,447	113,011	115,279
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	87,128	88,642	92,081
⑪為替レート（1米ドルにつき、 シケル、期中平均）	3.8406	3.5998	3.5949

〔注〕 2018年値は全て暫定値。②：ヨルダン川西岸・ガザ地区を除き、ゴラン高原、東エルサレムを含む。⑦は通関ベース  
〔出所〕 ①②④～⑧⑩⑪：イスラエル中央統計局（CBS）、③：World Economic Outlook, IMF（2019年4月版）、⑨：イスラエル中央銀行

2018年の実質GDP成長率は3.3%と前年の3.5%から鈍化したが、内需主導で底堅い成長を維持した。鈍化の要因は外需がマイナスになったため、内需は強含みで推移している。労働市場は完全雇用に近い。

## ■ 内需主導で3%台の成長

2018年の実質GDP成長率は前年比3.3%と、前年の3.5%成長を下回ったものの内需主導で底堅い成長を維持した。需要項目別に見ると、成長を牽引したのは民間最終消費支出、政府最終消費支出、総固定資本形成で、財貨・サービスの輸出は前年よりも増加率が鈍化した一方、輸入は増加したため、外需が成長にマイナスに寄与し、全体の成長率を鈍化させた。

2019年第1四半期の実質GDP成長率は前期比1.2%増（季節調整済み、年率換算4.8%増）と引き続き好調である。

## ■ 機械機器が輸出を牽引

貿易をイスラエルの通関統計で見ると、2018年の輸出は前年比1.3%増の619億5,140万ドル、輸入は10.8%増の766億1,070万ドルとなった。この結果、貿易赤字は前年の79億9,320万ドルから66億6,610万ドル増加し、146億5,930万ドルとなった。

表1 イスラエルの需要項目別実質GDP成長率

	2017年	2018年				2019年 Q1	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	3.5	3.3	0.9	0.2	0.7	0.9	1.2
民間最終消費支出	3.4	3.9	1.8	△0.6	0.9	1.8	1.6
政府最終消費支出	3.4	3.7	2.3	△1.7	2.3	△0.0	0.3
国内総固定資本形成	3.5	3.6	△0.4	6.7	△9.7	7.4	4.7
財貨・サービスの輸出	5.1	4.7	1.1	△1.0	3.4	△1.3	1.3
財貨・サービスの輸入	5.1	6.6	3.1	△0.6	△0.4	3.1	2.0

〔注〕 四半期は季節調整済み系列の前期比増減率。

〔出所〕 イスラエル中央統計局（CBS）

輸出を品目別にみると、輸出を牽引したのは機械機器・電子機器・音響画像記録装置（前年比8.8%増）、次いで光学・医学・精密機器（11.0%増）、鉱物性生産品（45.6%増）だった。機械機器の中では、電気機器が13.6%増と好調であった。しかし、全体の21.9%を占める化学製品が前年比5.0%減と減少したため、増加率は低くなった。これは、化学製品の4割強を占める医薬品が22.7%減と大きく減少したためである。また、ダイヤモンドを主体とする真珠・貴石、金属及びその製品については、2016年から3年連続で減少傾向にある。

地域別にみると、25.7%を占めるアジア・大洋州が前年比12.0%増と好調であった一方、前年最大の輸出先であったEU28カ国（構成比28.4%、4.0%減）、北米（28.8%、1.3%減）など主要地域は不振であった。

国別に輸出を牽引した順にみると、中国（前年比19.6%増、香港含む）、トルコ（33.9%増）、キプロス（85.6%増）、ブラジル（29.2%増）、インド（11.1%増）であった。なお、日本への輸出額は25.7%増の10億3,160万ドルだった。一方、英国（前年比16.0%減）、ベルギー（18.9%減）、米国（2.1%減）、フランス（9.2%減）は減少幅が大きく、輸出を抑制した。

## ■ 鉱物性燃料が輸入を拡大

輸入を品目別にみると、真珠・貴石、金属及びその製品が2017年に続き2年連続で減少（前年比3.2%減）した以外は、主要品目すべて増加した。輸入を牽引したのは、輸入の

表2 イスラエルの主要品目別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2017年		2018年		2017年		2018年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
真珠・貴石、金属及びその製品	15,265.7	14,938.6	24.1	△2.1	機械機器・電子機器・音響画像記録装置	16,737.3	17,848.7	23.3	6.6
機械機器・電子機器・音響画像記録装置	12,989.2	14,135.6	22.8	8.8	鉱物性生産品	8,004.5	10,266.7	13.4	28.3
化学製品	14,305.9	13,591.0	21.9	△5.0	輸送機器	6,854.9	8,468.3	11.1	23.5
医薬品	7,285.7	5,632.3	9.1	△22.7	化学製品	6,401.2	7,027.8	9.2	9.8
光学・医学・精密機器	4,767.5	5,290.8	8.5	11.0	真珠・貴石、金属及びその製品	7,129.9	6,899.1	9.0	△3.2
ゴム・プラスチック製品	2,848.4	3,102.3	5.0	8.9	卑金属及びその製品	3,926.7	4,711.4	6.1	20.0
輸送機器	3,321.9	2,445.5	3.9	△26.4	ゴム・プラスチック製品	3,123.5	3,370.2	4.4	7.9
卑金属及びその製品	2,090.4	2,430.4	3.9	16.3	繊維製品	2,632.3	2,811.5	3.7	6.8
鉱物性生産品	1,025.8	1,493.8	2.4	45.6	光学・医学・精密機器	2,639.4	2,793.7	3.6	5.8
植物性生産品	1,442.3	1,393.7	2.2	△3.4	食料品、飲料、タバコ	2,541.1	2,741.0	3.6	7.9
繊維製品	961.5	967.4	1.6	0.6	植物性生産品	1,911.2	2,062.6	2.7	7.9
合計 (その他含む)	61,151.5	61,951.4	100.0	1.3	合計 (その他含む)	69,144.7	76,610.7	100.0	10.8

〔出所〕 イスラエル中央統計局 (CBS)

表3 イスラエルの主要国・地域別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2017年		2018年		2017年		2018年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
アジア大洋州	14,224.7	15,931.7	25.7	12.0	17,976.6	18,974.6	24.8	5.6
中国	7,527.1	9,005.7	14.5	19.6	8,439.9	9,039.0	11.8	7.1
インド	1,934.3	2,149.5	3.5	11.1	1,853.7	1,783.5	2.3	△3.8
日本	820.6	1,031.6	1.7	25.7	2,081.5	2,055.8	2.7	△1.2
韓国	886.3	970.1	1.6	9.5	1,141.9	1,515.5	2.0	32.7
欧州	22,277.3	21,923.4	35.4	△1.6	38,497.5	43,566.8	56.9	13.2
EU28	18,306.8	17,570.1	28.4	△4.0	28,471.5	31,624.8	41.3	11.1
英国	5,168.2	4,341.2	7.0	△16.0	4,305.0	6,151.4	8.0	42.9
オランダ	2,303.8	2,275.6	3.7	△1.2	2,925.6	3,282.5	4.3	12.2
ベルギー	2,704.8	2,193.5	3.5	△18.9	4,098.9	3,823.2	5.0	△6.7
ドイツ	1,638.4	1,777.2	2.9	8.5	4,721.8	5,420.0	7.1	14.8
フランス	1,767.9	1,605.9	2.6	△9.2	1,755.5	2,197.6	2.9	25.2
イタリア	935.2	981.7	1.6	5.0	2,777.8	2,841.7	3.7	2.3
スペイン	831.0	882.6	1.4	6.2	1,717.5	1,584.4	2.1	△7.7
キプロス	404.5	750.8	1.2	85.6	368.2	427.8	0.6	16.2
スロベニア	374.0	417.1	0.7	11.5	323.0	74.2	0.1	△77.0
ポーランド	247.0	266.6	0.4	7.9	435.3	415.0	0.5	△4.7
アイルランド	68.3	104.4	0.2	52.9	868.4	1,179.1	1.5	35.8
その他欧州	3,970.5	4,353.3	7.0	9.6	10,026.0	11,942.0	15.6	19.1
スイス	1,456.5	1,351.9	2.2	△7.2	5,528.7	7,757.2	10.1	40.3
トルコ	1,428.1	1,912.4	3.1	33.9	2,895.9	2,885.5	3.8	△0.4
ロシア	777.9	664.2	1.1	△14.6	1,232.3	776.4	1.0	△37.0
北米 (NAFTA)	18,075.1	17,837.3	28.8	△1.3	8,578.2	10,211.4	13.3	19.0
米国	17,046.1	16,696.0	27.0	△2.1	8,084.8	9,755.1	12.7	20.7
中南米	1,563.9	1,802.7	2.9	15.3	858.3	816.6	1.1	△4.9
ブラジル	905.0	1,169.1	1.9	29.2	215.3	187.4	0.2	△13.0
アフリカ	914.8	847.3	1.4	△7.4	255.3	299.5	0.4	17.3
合計 (その他含む)	61,151.5	61,951.4	100.0	1.3	69,144.7	76,610.7	100.0	10.8

〔注〕 アジア大洋州は、アジアとオセアニア等の合計値。中国は中国本土と香港の合計値。その他欧州は欧州からEU28を控除したもの

〔出所〕 イスラエル中央統計局 (CBS)

13.4%を占める鉱物性生産品 (前年比28.3%増)、11.1%を占める輸送機器 (23.5%増)、23.3%を占める機械機器・電子機器・音響画像記録装置 (6.6%増) である。輸送機器では航空機・同部品 (16億7,730万ドル、2.3倍)、自動車 (64億3,300万ドル、11.1%増) の増加が目立つ。機械機器では、電気機器および映像・音声再生機器 (79億

5,320万ドル、8.9%増)、機械類及びこれらの部分品 (98億9,560万ドル、4.9%増) が好調であった。

地域別にみると、輸入を牽引したのは全体の41.3%を占めるEU28カ国 (前年比11.1%増) で、13.3%を占める北米 (19.0%増)、24.8%を占めるアジア大洋州 (5.6%増) が続く。一方、中南米は4.9%減と振るわなかった。

国別に輸入を牽引した順にみると、スイス (40.3%増)、英国 (42.9%増)、米国 (20.7%増)、ドイツ (14.8%増)、中国 (7.1%増、香港含む)、フランス (25.2%増)、韓国 (32.7%増)、オランダ (12.2%増) となる。

一方、輸入減少幅が大きい国は、ロシア (37.0%減)、ベルギー (6.7%減)、スロベニア (77.0%減)、スペイン (7.7%減) などであった。なお、日本からの輸入額は1.2%減の20億5,580万ドルであった。

## ■対内直接投資は200億ドル超

中央統計局の対内直接投資統計 (国際収支ベース、ネット、フロー) によると、2018年の対内投資は、218億300万ドル

(前年比20.0%増) と拡大した。対外直接投資は60億800万ドル、前年比2.4%減であった。

2018年の対内投資案件としては、10月に米国の香料大手インターナショナル・フレーバーズ・アンド・フレグランスィーズ (IFF) が同業のフルタロム (Frutarom) を買収。12月には米国の飲料大手ペプシコがソーダスト

表4 日本の対イスラエル主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2017年		2018年			2017年		2018年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
一般機械	789,956	901,594	41.7	14.1	電気機器	276,101	321,653	23.0	16.5
半導体等製造装置・部分品	675,053	775,545	35.9	14.9	化学製品	189,183	280,222	20.0	48.1
輸送用機器	690,340	781,699	36.1	13.2	医薬品	33,223	134,473	9.6	304.8
乗用車	613,064	727,931	33.6	18.7	一般機械	163,455	226,820	16.2	38.8
化学製品	94,483	118,215	5.5	25.1	科学光学機器	156,981	220,945	15.8	40.7
電気機器	89,863	91,201	4.2	1.5	半導体ウエハー・デバイスの検査用機器	114,213	171,613	12.3	50.3
原料別製品	47,473	59,270	2.7	24.8	原料別製品	162,618	175,890	12.6	8.2
科学光学機器	43,724	45,169	2.1	3.3	食料品	79,024	101,843	7.3	28.9
原料品	5,362	5,625	0.3	4.9	原料品	14,390	19,074	1.4	32.6
食料品	2,395	2,578	0.1	7.6	輸送用機器	3,620	5,112	0.4	41.2
鉱物性燃料	135	158	0.0	17.0	鉱物性燃料	224	335	0.0	49.6
合計 (その他含む)	1,922,875	2,163,291	100.0	12.5	合計 (その他含む)	1,127,793	1,400,592	100.0	24.2

[出所] 財務省貿易統計

リーム (SodaStream International) を買収。2019年3月には、米半導体メーカーのエヌビディアが、メラノックス・テクノロジーズ (Mellanox Technologies) を約69億ドルで買収に関して合意したと発表した。

スタートアップでは2018年8月、米国のビジネスサポート最大手セールスフォースが、マーケティング支援のため人工知能を備えたクラウド型分析プラットフォームを企業、広告代理店向けに提供するデータラマ (Datorama) を買収した。

2019年3月には、米国マクドナルドがダイナミックイールド (Dynamic Yield) を買収した。マシンラーニングやAI技術により、さまざまな要素を分析し顧客ごとにドライブスルーでのメニュー表示を最適化し表示することで、売り上げ増加をサポートする。同月、中国のアリババも拡張現実 (AR) 分野のスタートアップであるインフィニティ・オーグメンテッド・リアリティー (Infinity AR) を買収した。

## ■日本の輸出は3年連続で20億ドル規模

日本の財務省貿易統計をドル換算したのによると、2018年の日本からの対イスラエル輸出は前年比12.5%増の21億6,329万ドル、輸入は24.2%増の14億59万ドルで、貿易黒字は7億6,270万ドルと前年比3,238万ドル減少した。

輸出を牽引したのは一般機械と輸送用機器である。一般機械では輸出総額の35.9%を占める半導体等製造装置・部分品が14.9%増加したことが主因だ。世界的な半導体需要を背景に、イスラエルの半導体製造工場で設備更新・増設が続いたものと考えられる。インテル工場やイスラエル国内のインテルサプライヤー向けの取引が増加しているものと考えられ、2016年以降好調な状況が継続している。次いで、輸送用機器で輸出総額の33.6%を

占める乗用車が18.7%増となった。

輸入は化学製品、科学光学機器および一般機械が牽引した。特に輸入を牽引したのは化学製品に分類される医薬品で、4.0倍増と拡大した。次いで、科学光学機器が40.7%増と拡大した。これは半導体ウエハーまたは半導体デバイスの検査用の機器が50.3%増と好調であったことによる。一般機械ではターボジェットまたはターボプロペラの部分品などの原動機が8,318万5,000ドル(80.7%増)と増加した。食料品では、グレープフルーツジュースの輸入増の影響により、果実9,379万9,000ドル(32.9%増)となった。

一方、電気機器の半導体等電子部品 (IC) は、単価が大幅に低下していることを背景に、3,749万6,000ドル(39.7%減)と減少した。同品目は、2015年以降落ち込みが続いている。

日本銀行の国別・業種別対外・対内直接投資統計 (ネット、フロー) によると、2018年の対外投資は90億円と前年の1,251億円と比べ大きく減少した。これは前年に田辺三菱製薬によるニューロゲーム社の大型買収 (1,200億円超) があったためである。一方、対内直接投資は1,379億円で、前年の27億円から急増した。

2018年8月以降の日系企業による対イスラエル投資案件としては、8月に武蔵精密工業が、自動車の電動化に向けた先端技術を開発、展開するベンチャー企業のソフトウHEEL (Softwheel) と資本提携契約を締結し同社の第三者割当増資の引き受けを行った。10月にはオムロンベンチャーズが、顔画像に関するプライバシー保護技術を開発しているデイ・アイデンティフィケーション (De-Identification) に出資した。11月には住友商事が、小型飛行機で撮影した画像から農場の状況などを分析し、収穫率を向上させる技術を持つアグリテックのスタートアップ企業タラニス社 (Taranis Visual) への出資を発

表した。また、オリンパスが良性前立腺肥大症低侵襲治療デバイスの研究開発・製造を行う医療機器メーカー、メディテイト (Medi-Tate) 社に出資することで合意したと発表。合意内容には製品販売の権利とメディテイトの株式を100%取得できる権利が含まれる。2019年1月には、武蔵精密工業がスマートファクトリーの実現を目的としてIndustry 4.0に向けたAIの共同開発を行うことで、ポリアキン・イノベーション (Poliakine Innovation) と合意、4月に同社の設立者が代表を務めるシックスアイ・インタラクティブ (SixEye Interactive) とAIに関する合弁会社Musashi AI設立で合意した。6月には、ルノー・日産・三菱アライアンスが「アライアンス・イノベーション・ラボ・テルアビブ」を開設し、「(自動運転用) センサー」「サイバーセキュリティー」「ビッグデータ」の分野

のスタートアップ企業と10件以上の共同プロジェクトを実施している。また、小糸製作所も先進運転支援システム (ADAS) 向け前方監視運転支援システムの開発を行うブライトウェイ・ビジョン (BrightWay Vision) 社の株式36.92%を取得し、持分法適用会社としたと発表した。さらに豊田通商も、AIによる画像解析で車両検査サービスを提供するユーブイアイ (UVeye) 社の第三者割当増資に参加し、同社に出資したと発表した。

ジェトロの調査によると、イスラエル進出企業数 (拠点数) は引き続き増加傾向を維持し、2016年の60台から2018年には80を超えた。2019年に入り、東芝、豊田通商などが拠点を設立し日本人駐在員を配置した。技術探索を目的とする事例が多い。